

総合的な学習の時間における指導と評価

- 評価シートとKJ法を活用した指導計画の改善 -

小牧市立大城小学校

1 はじめに

近年、総合的な学習の時間に関して様々な議論が巻き起こっている。教育関係者の間では、工夫された先進的な学習活動がある一方で、「活動あって目標なし」という実態を踏まえた指摘がある。そして、マスコミで「学力低下」が論じられ、中学校教員を対象にした文部科学省の意識調査では、約55%が総合的な学習の時間に対して否定的な回答をしている。

また、本校では、アンケートを通して保護者から総合的な学習の時間の内容についての疑問や不安を感じている声が届けられた。

- ・ 総合的な学習の時間の見直しを行ってほしい。時間をかけすぎていないか。
- ・ 子供たちが活動をしているだけで、本当に力が付いているのか疑問である。

このような状況の中で、総合的な学習の時間において、どのように指導し、どこを改善していけば外部からの信頼を得られるのかについて研究の主眼を置き、次の2点を研究の中心とした。

- ・ 指導と評価のPDCAサイクルのシステム化を通して、教育活動全体における総合的な学習の時間の位置付けを明確にする。
- ・ 指導上の課題を、組織マネジメントの考え方に基づいて計画的に改善していく。

これらによって保護者が価値を認めるような学習活動を実践し、総合的な学習の時間が目指している「生きる力」を育てることができると考えた。

2 研究の内容

(1) 指導目標の明示と重点指導目標の設定

指導目標としての総合的な学習の時間における「目指す児童像」を設定し、それを具体化した「育てたい力」を明示することにした。そして、「重点指導目標」を課題解決能力の育成に定め、学年の発達段階を考慮して指導するようにした。

(2) 学習スキル系統表の作成

教育課程の中から総合的な学習の時間で活用することのできる知識や技能を「学習スキル系統表」にまとめ、児童の学習履歴を意識した指導に役立てるようにした。

(3) 教科等と関連付けた学習計画表の作成

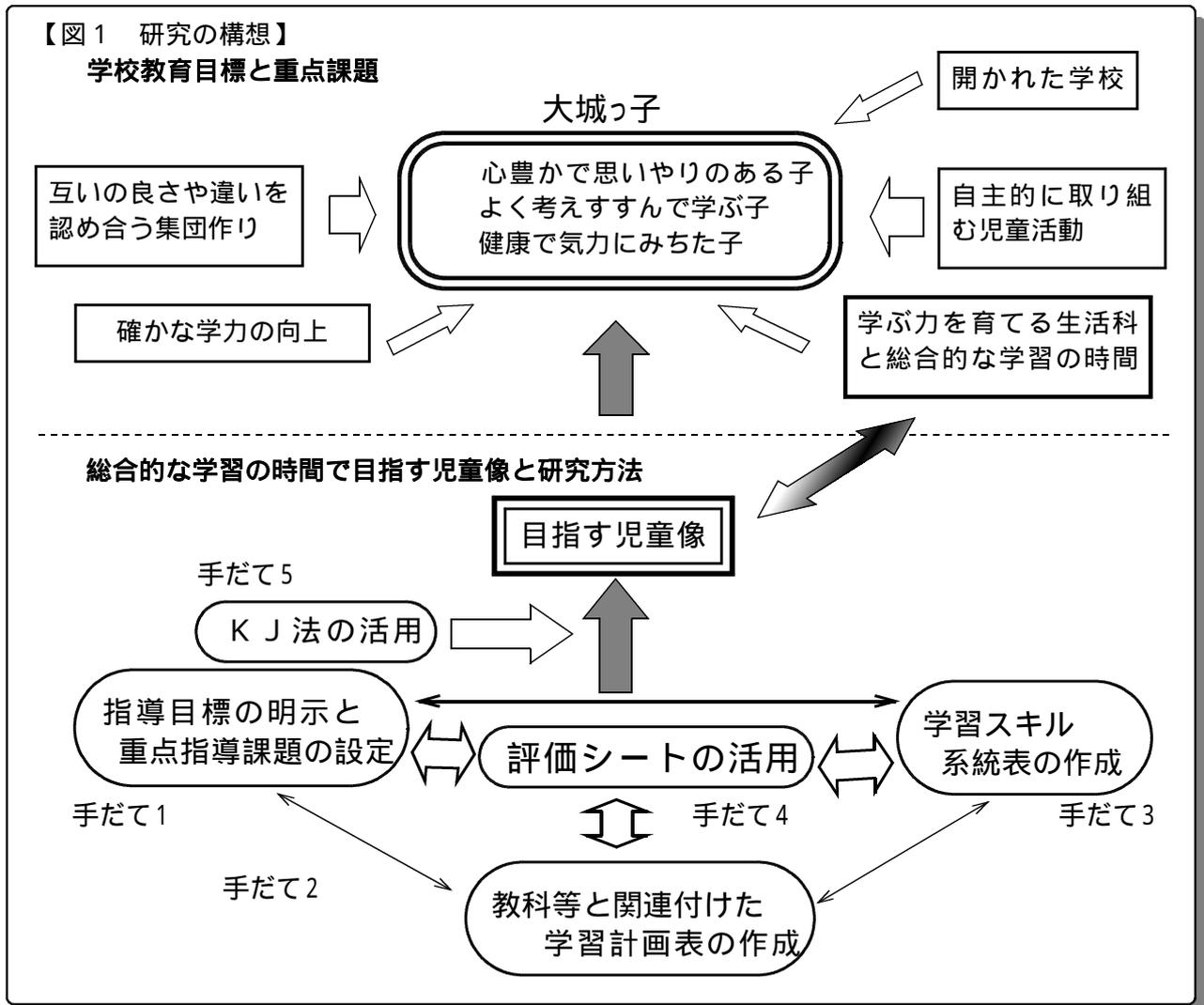
教育課程の中から教科と道徳、学級活動の単元や主題を取り出して学年ごとの一覧表にまとめ、学習計画表を作成する際に、それらと関連付けた学習活動を設定できるような条件整備を行った。そして、学習計画表の中にそれぞれの学習活動で評価する「育てたい力」と評価方法とを位置付け、目標を意識した指導ができるようにした。

(4) 評価シートの活用

目指す児童の姿や改善への具体的方策、達成基準等を明らかにした「評価シート」を作成した。そして、各学期ごとの児童に対するアンケートを基に指導の達成度を評価し、指導計画の改善を行うようにした。

(5) KJ法の活用

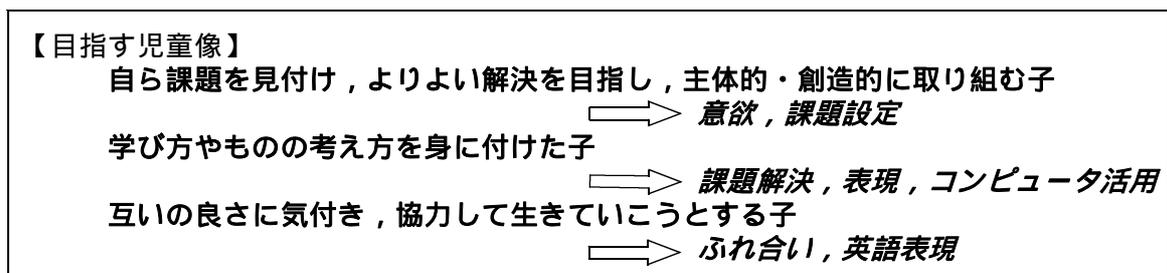
(1)～(4)までの研究実践を行うとともに、組織マネジメントについて研修を行い、その手法の一つであるKJ法によって指導上の課題を更に洗い出し、改善策を立て、優先順位を決めて実行していくことにした。



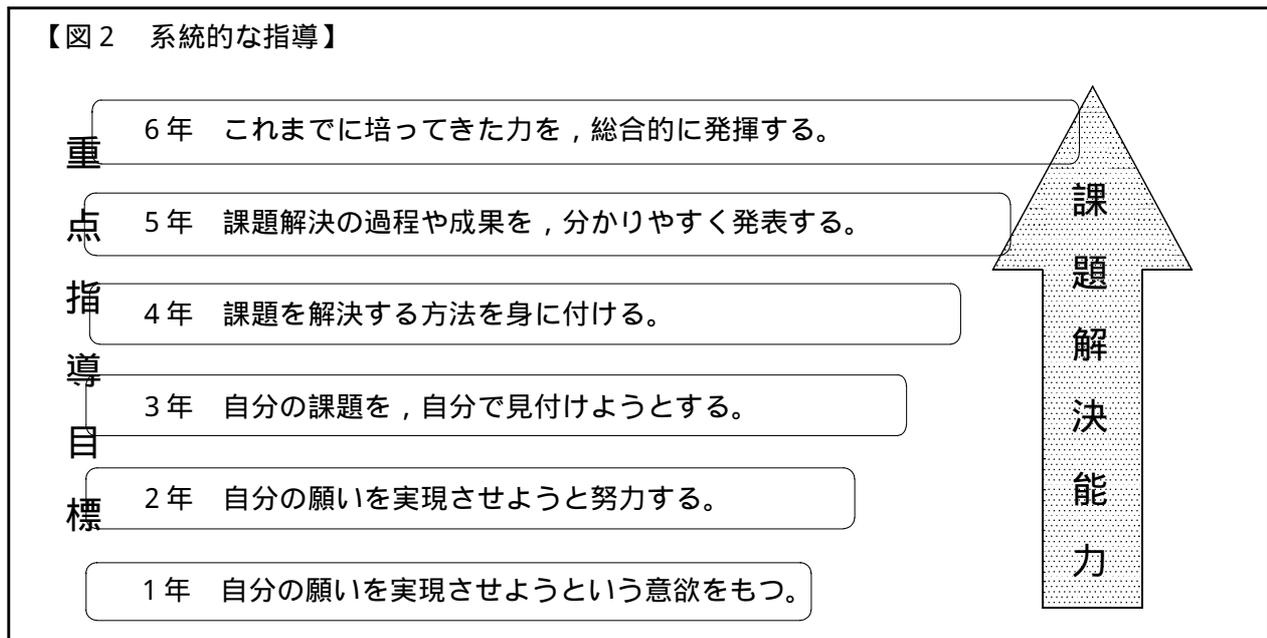
3 研究の実際

(1) 指導目標の明示と重点指導目標の設定

学習指導要領で示されている総合的な学習の時間のねらいと本校の実態を踏まえて、次の「目指す児童像」が実現するように、指導に当たることにした。



目指す児童像を基に、「課題解決能力の育成」という重点指導目標を決め、1年から6年までの各学年で系統的に指導を行うようにした。



目指す児童像を具体化したものとして，育てたい力を「意欲」，「ふれ合い」，「課題設定」，「課題解決」，「表現」，「英語表現」，「コンピュータ活用」の7項目にまとめ，低・中・高学年の3段階に分けて設定した。これを，総合的な学習の時間における指導目標として実践を進めた。

【表1 育てたい力】

	1・2年	3・4年	5・6年
意欲	教師や仲間の支援を得ながら，ねばり強く追究しようとする。	試行錯誤を重ねながら，より深く追究しようとする。	自分の能力を生かし，問題解決に向かって追究しようとする。
ふれ合い	他のよさを認め合い，協力して活動しようとする。	自分たちが多くの人々によって支えられていることを知り，進んで交流しようとする。	多くの人々とかわりながら，よりよい生き方を目指そうとする。
課題設定	身の回りの人々や自然に興味・関心をもち自分の課題をつかむことができる。	地域の人々の暮らしや自然に興味・関心をもち，自分の課題をつかむことができる。	社会や世界の人々の暮らしや自然に興味・関心をもち，自分の課題をつかむことができる。
課題解決	課題解決のために，見たり聞いたりしたことを，ノートなどにメモすることができる。	課題解決のために，いろいろな方法で調査や実験，観察などを行うことができる。	課題解決のために，目的と方法に合わせて資料や器材を選び，調査活動等を行うことができる。
表現	調べたことを事柄の順序が分かるように書いたり，話したりすることができる。	調べたことを分かりやすくまとめ，相手に伝わるように書いたり，話したりすることができる。	考えたことや調べたことを効果的にまとめ，筋道を立てて書いたり話したりすることができる。
英語表現		(英語活動) 歌やゲームを通して，英語のリズムやイントネーションをつかむことができる。	(英語活動) 簡単な表現で，相手と会話を行うことができる。
コンピュータ活用(省略)			

(2) 学習スキル系統表の作成

平成15年度から16年度にかけて、教師が指導上確認しておくべき「学習スキル」(学習を支える基礎的な能力)を教育課程の中から抽出して表を作成した。そして、今年度は、児童が各教科等の学習で得た個々の知識を結び付けて総合的に働かせることができるように、下のような系統表に改善した。

【表2 平成17年度作成の学習スキル系統表】

項目 \ 学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
取 材	発見カード	インタビュー・聴き取り	メモの取り方 アンケート 写真			情報収集カード
検 索 (処 理)	図書調べ学習		国語辞典	漢字辞典 ローマ字 資料調べ (資料整理分析)		
表 現	スピーチ 感想画 紙芝居	説明図 絵地図 ポスター	司会 新聞 年表 放送番組	対談 紹介文 ホームページ 台本	ディベート ポスターセッション	パネル ディスカッション 情報誌 ニュース番組
礼 儀	人との応対	手紙 招待状	お礼状	依頼状		敬語の使い方
P Cリテラシー	マウスレッスン、 お絵描きソフトなど	キーボードレッスン、 インターネットなど	ワープロ、 ホームページ閲覧など	Eメール、 プレゼンソフトなど	ワープロ、 ホームページ作成など	百科事典、 天体ソフトなど

(3) 教科等と関連付けた学習計画表の作成

次の2点に考慮して、学習全体の中でゆとりをもった総合的な学習の時間の学習計画表を作成した。

- ・ 教科等の内容を発展させた学習活動を生み出す。
- ・ 教科等との関連を図り横断的な学習活動を生み出す。

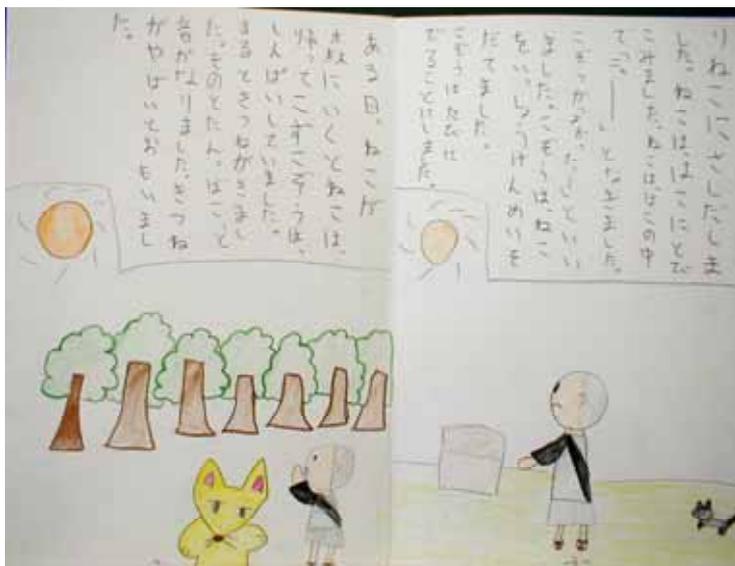
【表3 教科等と総合的な学習の時間の学習活動との関連 3年】

月	教科等の学習活動	月	「総合」の学習活動
4	理科 自然を探検しよう	4	オリエンテーション
5	チョウを育てよう	5	私たちは昆虫博士
6	こん虫の体を調べよう		
10	国語 世界の民話を読もう 図工 そのときの気持ちを大切に 学活 本の紹介をしよう	9	昔話を作ろう
1	社会 今に残る昔とくらしのうつり変わり 図工 みんなで作ろう夢の町	11	昔のおもちゃを作って遊ぼう
12	算数 表とグラフ	1	棒グラフで見よう大城小
12	国語 「わたしの研究レポート」を書こう		

【表5 平成17年度 3年 学習計画表】

学年テーマ	3年 調べてみよう 私たちはみんな豆記者					
重点指導目標	自分の課題を自分で見付けようとする。					
育てたい力	A 試行錯誤を重ねながら、より深く追究しようとする。 B 自分が多くの人々によって支えられていることを知り、進んで交流しようとする。 C 地域の人々の暮らしや自然に興味、関心をもち、自分の課題をつかむことができる。 D いろいろな方法で調査や実験、観察などを行い、ノートなどにメモすることができる。 E 調べたことを分かりやすくまとめ、相手に伝わるように書いたり、話したりすることができる。					
単元目標	オリエンテーション 私たちは昆虫博士 デザートを作る 昔話を作る 昔のおもちゃを作って遊ぼう 棒グラフで見よう大城小 1年の学習のまとめをしよう ・総合的な学習の時間で必要な基礎的能力（テーマ設定、計画作成、調べ方、まとめ方等）を身に付けることができる。 ・総合的な学習の時間で必要な基礎的能力を身に付けることができる。 ・自分で考えて昔話を作り、読み聞かせをすることができる。 ・お年寄りとの交流を通して、昔の暮らしに関心をもつことができる。 ・集めたデータをグラフを使って、レポートにまとめることができる。					
月	学 習 活 動	学習スキル	情 報	共 生	目 標	評価(育てたい力)
4	オリエンテーション (1) ・総合的な学習の時間って何？ ・昨年度の3年生の実践 私たちが昆虫博士 (10) テーマを決めよう		マウスレス スン ワープロ	学級作り (3)	英 語 活 動 16 時 間	
5	*社会：校区探検 (4) 学習計画を立てよう ～ 調べ方を学ぼう ・調べ方(本、ネット)、メモの仕方	図書検索 ネット検索	インター ネット かな棒くん			D：調べたことのメモをとることができる。 (ワークシート)
6	まとめ方を学ぼう ～ まとめよう デザートを作る (13) ～ 給食のデザート調べよう 作るデザートを決めよう ～ 調べよう ～ 買い物に行こう	質問状 電話の対応				B：大城祭りに向けて協力的に活動することができる。(観察)
7	～ デザートを作る ～ レシピを作る	写真 説明書		大城祭り (1)		C：テーマ設定の理由を説明することができる。(アンケート)
9	昔話を作る (15) ～ あらすじを考えよう ～ 昔話を書こう					C：自分で作りたい物語を決めることができる。(ワークシート)
10	～ 絵本にしよう ～ 発表会をしよう ～ 仲良し学級で発表しよう	絵本作り		校外学習 (1)		
11	昔のおもちゃを作って遊ぼう (17) ～ 昔のおもちゃ調べよう ～ 作り方を調べよう ～ 作ってみよう(老人会の支援) ～ おもちゃ名人決定イベント	紹介文				A：意欲的におもちゃ作りに取り組むことができる。(観察)
12	～ おもちゃ新聞を作る ～ 発表会をしよう 棒グラフで見よう大城小 (20) ～ テーマを決めよう	新聞	レコーダ 電子紙芝居			E：作り方が分かるようにまとめることができる。(新聞)
1	～ データを集めよう ～ グラフでまとめてみよう					C：テーマ設定の理由を説明することができる。(アンケート)
2	～ 発表会をしよう ～ 研究レポートにまとめよう	スピーチ レポート		送る会 (2)		
3	1年の学習のまとめをしよう (2) ・自己評価、ファイル整理、感想交流					
計	82時間(情報の10時間を含む)		(10時間)	7時間	16	合計 105時間

児童同士で助け合う姿が見られた。また、場面ごとにどのような絵を描けばよいかについて困ったときには、図書室に行って絵本を参考にする児童もいた。このようにして出来上がったのが、下の作品である。



【資料2 児童Bの作品】

< 他の児童の作品例（題名） >

- ・ 山向こうの一軒家
- ・ 金の木，銀の木
- ・ 桃から出てきたきつねとたぬき
- ・ けんかの弱いくま
- ・ ふしぎなどうくつのでんせつ
- ・ まねしんぼうのとなりのじいさん
- ・ なげとばしたおばあさん
- ・ とんちのじょうずなこぞうさん
- ・ ネコのにんじゃ物語

エ 絵本の読み聞かせをしよう

絵本が完成したところで、読み聞かせの練習をする時間を設けた。交流学級である5年生に読み聞かせをするために、本の持ち方、声の出し方、表現の工夫について特に注意していた。互いに感想を言い合いながら練習をする姿が見られた。

「なかよし読書」の当日、緊張しながらも自信をもって読み聞かせをしていた。5年生の児童は、一生懸命に読んでいた3年生へ大きな拍手を送っていた。



【資料3 なかよし読書】

充実した表情で教室に戻ってきた児童は、次のような感想を書いた。

< 児童の感想 >

- ・ 気持ちをこめてわかりやすくよもうとしたけど、ちょっときんちょうした。もっとれんしゅうしたかった。
- ・ おねえさんたちに見せながら読むのは、けっこうむずかしかった。でも、うれしかった。
- ・ わらわれないように力を入れて読んだ。つぎは、もっとおもしろい話を作りたい。
- ・ あいてのことを考えて読んだ。はくしゅをもらったとき、とても気持ちがよかった。

また、児童から「2年生にも読み聞かせをしたい」という意欲的な声があがったため、総合的な学習の時間の発表の一つとして3学期に実施した。

「昔話を作ろう」の学習では、教科や行事と関連付けて進めることができた。また、児童一人一人が自分で描いた構想に基づいて個別の学習ができた。そして、読み聞かせを通して異学年の児童との交流ができたことが大きな成果である。

(5) 評価シートの活用

本校は平成14年度から16年度にかけて、学校評価システム（P D C Aサイクル）の研究を行った。この研究で、教育活動やその他の学校運営の状況について評価し、その結果を公表するとともに、結果に基づいてその都度改善をしていくことができるようなシステムの定着を目指してきた。

この学校評価システムの核の一つになるのが、「評価シート」である。年度当初に設定した各領域の重点指導項目について、目指す姿、改善への具体的方策、達成基準等を定め、中間評価を実施して、その後の指導の改善に生かしている。

総合的な学習の時間においても、重点指導課題である「課題解決能力の育成」のために、児童の自己評価を基にした指導と評価のP D C Aサイクルの構築を進め、必要に応じて指導計画の修正や更新を行っていくことにした。この評価シートを活用することにより、14年度の「何をしたらいいのか」という学習活動の指導展開に比重が置かれていた教師の意識が、15年度からは「何を育てるのか」という目標を意識したものに変わっていった。そして、評価シートの様式や内容についての改善を行い、昨年度から【表6】のものを使うようにした。

【表6 平成16年度 4年 評価シート】

課 題	課題解決能力を育てる学習活動		担当部会 責任者	総合的な学習の時間部会 4年 * * * *		
実態把握	自分が設定した課題の解決のための方法や道筋がはっきりせず、「調べて写して終わり」といった安易な学習活動がときおり見られる。低学年から育てるべき基礎的な能力（学習スキル）についての教師の意識がやや希薄。					
重点目標	課題を解決する方法を身に付けさせる。					
行動目標	学年に応じた能力を生かして資料選びや調査を行い、自分の力でまとめることができる。					
具体的方策	活動に応じた目標設定の支援 ワークシート、ふり返しシートの活用 活動に即した学習スキル（系統図利用）の活用 ファイリング（ポートフォリオ）の習慣化					
指導上の留意点	学習ファイルを適宜点検し、学習スキル・学習方法・以後の進め方等について、個別またはグループ別に適切な支援を行う。					
評価方法	教師の自己評価（児童アンケート実施後）					
達成基準	3 学年の指導目標達成者が、児童の80%以上 2 学年の指導目標達成者が、児童の50%以上80%未満 1 学年の指導目標達成者が、児童の50%未満					
中間評価	アンケート項目	目標設定	ワークシート	学習スキル	ファイリング	総合評価
	達成割合（%）	97.2	97.2	97.2	94.4	
	達成度	3	3	3	3	3
7月	アンケート結果の分析			改善点		
	～ のアンケート項目で、ほとんどの児童が「できた」と答えているのは、めあての設定に十分時間がとれたこと、ワークシートが効果的に活用できたことが功を奏したのだと思う。...			1学期は、社会の発展学習ということもあり、教師主導の場面があったが、2学期以降は、児童主体の学習活動を進められるようにしたい。...		
年度末評価	アンケート項目	目標設定	ワークシート	学習スキル	ファイリング	総合評価
	達成割合（%）	81.1	94.6	86.5	100.0	
	達成度	3	3	3	3	3
3月	アンケート結果の分析			次年度の課題		
	～ のアンケート項目で3の達成基準に到達できたが、達成割合は下回った。これは、活動単位が学級から個人・グループレベルに変わったためだと思われる。...			学級の枠を超えて児童の学習テーマによってグループを編成したが、きめ細やかな児童支援は難しかった。指導者の確保が難しければ、...		

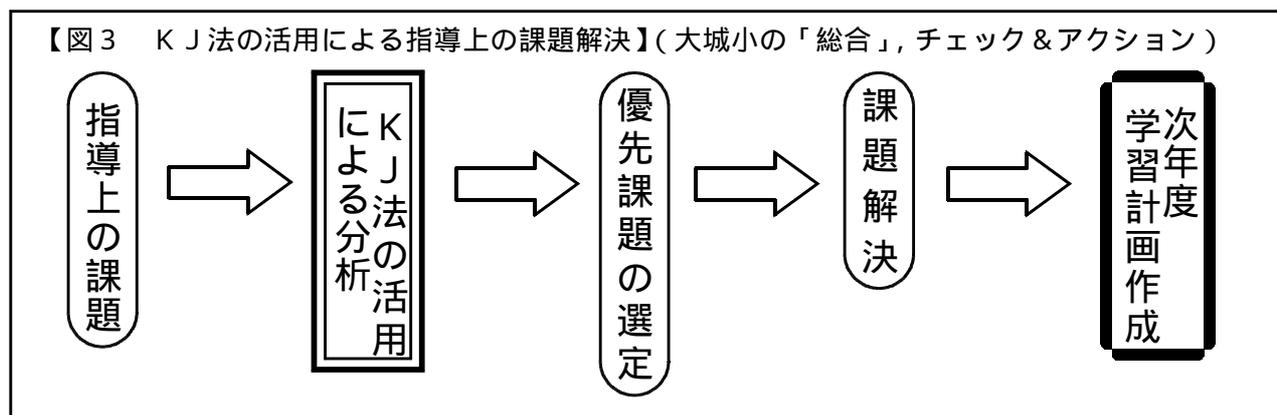
< 児童アンケート >

- | | | |
|---|------------------------------------|------------|
| 1 | めあてをもって活動できましたか。 | < はい・いいえ > |
| 2 | めあてに沿ってワークシートやふり返しシートに書くことができましたか。 | < はい・いいえ > |
| 3 | それまでの学習で学んだことを生かして活動できましたか。 | < はい・いいえ > |
| 4 | ワークシートや必要な資料をファイルにとじてありますか。 | < はい・いいえ > |

(6) 組織マネジメントに基づいた指導上の課題解決

本校は、学校評価システムの研究に取り組み、評価シート等を活用しながら具体的な改善を試みてきた。しかし、様々な課題に全職員の意識を反映させながら解決していくところまでは至っていなかった。そこで、平成16年8月に名古屋大学の南部初世先生を招いて組織マネジメントに関する研修を行った。

そこで学んだKJ法による組織マネジメントの方法を総合的な学習の時間の課題解決のために活用することにした。全職員で抱えている指導上の課題を出し合い、KJ法の活用による分析を行った。そして、早急に解決すべき優先課題を選定し、課題解決に取り組んだ。



【資料4 KJ法】

< KJ法とは? >
文化人類学者 川喜田二郎氏が考案した創造性開発(または創造的問題解決)の技法で、川喜田氏の頭文字をとって“KJ法”と名付けられている。ブレン・ストーミングなどで出されたアイデアや意見等を1枚ずつ小さなカードに書き込み、それらのカードをグループ化していき、小グループから中グループへと組み立てて図解していく。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするもの。

ア KJ法による課題の洗い出し

平成16年度の12月に、全職員による総合的な学習の時間にかかわる指導上の課題を、KJ法によって洗い出した。そして、グループ討議によってその解決策について検討した。その結果、「指導目標」、「指導方法」、「学習環境」等の項目に関して多数の意見が出た。

課題と解決策を項目ごとに分類してまとめたのが次ページの表である。本校では解決できない課題も含まれていたが、互いの考えを知るためにすべてを掲載した。

【表7 指導上の課題と解決策一覧(一部)】 ()内は人数

	指導上の課題	解決策
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・時間数が多く、伸ばしたい力は他にある。(4) ・「まとめ」「発表」が目的化している。(2) ・学ぶ意欲や「生きる力」にどうつながっているのか。(2) 	総合的な学習の時間の廃止(2) 基礎学力の時間設定。(3) 活動そのものの重視。
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年新しい学年で計画するのは大変(時間、内容)。(8) ・学年間の系統性がない。(3) ・カリキュラムが必要。(2) 	領域・カリキュラムを系統化。(6) 全校で取り組み、結果や成果を見えやすくする。 学期ごとの短いカリキュラムへ。 大枠を決め、内容を工夫。
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜午後の設定で、パソコン室や図書室の使用が不便。(12) ・割当を守らない学年や児童だけのPC室使用あり。 ・時間が長くて、集中力が持続できず。 ・いつも時間を集中してとるべきかどうか。 ・調べ学習のまとめの資料が不足。(2) ・学習資料の検索(図書、パソコン)が大変。 ・作業室がほしい。(2) ・校区内の学習や体験のための環境(施設や自然)が不十分。 	時間を学年別に変更。(6) 教室にプリンター配備。 機器活用の工夫。 学年用図書の場所設置。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習の場合、担任一人で見られる範囲は限定される。(14) ・一教師の労働範囲を越えていて、人材不足。 ・準備等の時間不足。(3) ・児童が主体的に追究する形が望ましい。(2) ・個別学習の場合、自主性に差がある。(2) 	ボランティアやゲストティーチャーの活用。 個々の状況を確認に点検。 担任の枠を超えた協力。
外部との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での活動の場合、時間や指導者が足りない。(5) ・学校外で「どこに」「誰に」頼めばいいのか探すのが大変。(2) ・打合せの時間がない。 ・他力本願になっている場合がある。 ・専門家の話を聞かせたい。 	協力者の確保、組織化。(5) 実践ごとの一覧表等保存。(3)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」は生活科に合わず、時間も足らなくなる。 ・リテラシーの時間は、生活科では取りにくい。 ・英語活動の毎回の時間設定が手間。 	時間割への固定。

イ 課題解決のための改善策と優先順位の検討

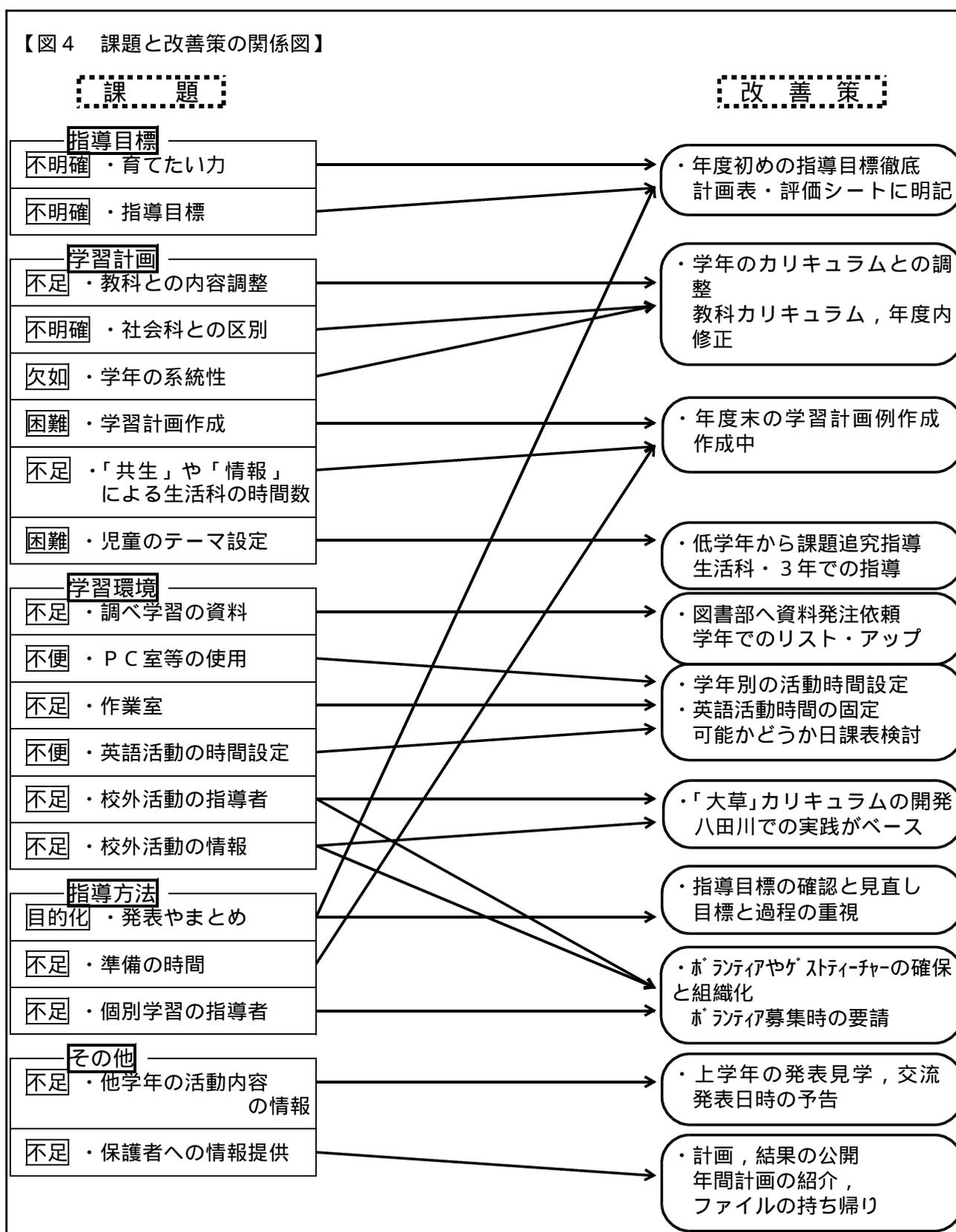
KJ法によって洗い出された多様な課題を、

解決すべき課題か。そして、解決することが可能な課題か。

という観点で分類、整理したのが次の図である。

課題の中には相互に関連し合ったものがあり、その改善策が共通のものになる場合もある。矢印が集中していれば、それだけ優先度が高い改善策ということになる。

【図4 課題と改善策の関係図】



出された改善策の中で，具体化すべきものの優先順位について話し合った。

その際に話題になったのが，「総合的な学習の時間の学習計画表を毎年作るのではなく，固定してほしい」ということであった。学習計画表は，年度の初めに各学年で作成することになっている。しかし，年度の初めは，仕事の量が多く，困難を伴う。そこで，学習計画表作成の負担をいかに減らすかが，これまでの課題となっている。

学習計画表を固定化するか、毎年作成するかについて協議したところ、「これまでの学習活動の蓄積があり、それらを学習計画例として整理しておけば、毎年作成することが可能である」ということになった。そこで、「年度末の学習計画例作成」が最優先課題となり、平成16年度末には、取組を終えておくことにした。

改善策を「16年度末に実現すべき改善策」「17年度初めに実現すべき改善策」「指導の際に留意すべき改善策」「今後の検討課題となる改善策」の4つに分類したものが下記の表である。

【表8 優先順位と進捗状況】

16年度末に実現すべき改善策	
・年度末の学習計画例作成（最優先課題）	→ 3月作成済み
・教科カリキュラム，年度内修正	→ 3月作成済み
・学年別の活動時間設定，英語活動時間の固定	→ 3月前者のみ日課表で処理，後者は困難
・ボランティアやゲストティーチャーへの対応	→ 3月各学年での資料（連絡先等）整理
17年度初めに実現すべき改善策	
・年度初めの指導目標徹底	→ 5月計画表・評価シートに記入済み
・学年から図書部に資料発注依頼	→ 特になし
・学習計画の公開	→ 4月各学年で紹介済み
指導の際に留意すべき改善策	
・低学年から課題追究指導	→ 生活科・3年での指導中
・指導目標の確認と見直し	→ 指導中
・上学年の発表見学，交流	→ 年度後半に実施予定
・学習結果の公開	→ ファイルの持ち帰り実践中 今後の発表会実施予定
今後の検討課題となる改善策	
・「大草」カリキュラムの開発	→ 過去の実践を含めて検討中

そして、「16年度末に実現すべき改善策」については、担当者でただちに取り掛かるようにした。その結果、3月末には完了することができた。

その他の改善策については、今年度開始後に新しい担当者を決め、部会を開いて作業を進めていった。そして、「17年度初めに実現すべき改善策」についても完了することができた。

ウ 学習計画表作成のための条件づくり

指導環境の課題のための改善策として、16年度末に二つの学習計画例を作成した。一つは昨年度のもの修正版で、もう一つはこれまでの本校の実践で累積した活動例をまとめたものである。これらの計画表と年度別学習活動表を参考にして、4月の早い段階に今年度の計画を作成しやすいようにした。

その結果、今年度の学習計画作成時に各学年でこれらの資料が活用され、

- ・これまでのものを踏襲した学習活動
- ・これまでのものを改良した学習活動
- ・教科横断的な新しい学習活動

等が計画され、以後活発な活動に取り組んでいる。

【表9 学習計画例その1, 16年度の実践がベース】

平成17年度用

月	学 習 活 動 (テーマ学習)				情 報	共 生	際 際
	3 年 地 域	4 年 環 境	5 年 食 , 自 然	6 年 命 , 成 長			
4	大城校区おもしろマップを作ろう おもしろマップ作りの計画を立てよう ・校区探検計画 ・調べ方を話し合う	ゴミ問題について考えよう ゴミ・資源の行方を探ろう ・自分の家のゴミ調べ等	食育満腹隊 農作業に関心をもとう	生き生きと輝く自分をめざして ・ガイダンス	P C 操 作 等 10 時 間 テ ー マ 学 習 分 に 含 め て 10 時 間	行 事 関 連 で 16 時 間	英 語 活 動 16 時 間
5	校区探検をしよう ・校区探検をする ・校区マップを作る	見学の計画を立てよう 環境センターとエコハウス小 牧の見学	農地作りを始めよう 個人テーマ ・テーマ決定 ・調べ学習 2月まで	・テーマ設定準備			
6	もっといろいろ知ろう ・もっと知りたい所を探検する	調べたことをまとめよう ・新聞, スピーチ発表等 ・自己評価	苗を植えよう 草取りをしよう	・テーマ設定準備 ・福祉実践教室 ・運動会			
7	まとめをしよう ・校区探検をまとめる	環境によい学校作り宣言をしよう 活動計画を立てる ・今後の活動に関する意識調査 ・活動班の決定	農地の観察をしよう 稲の生長を観察しよう	・テーマ設定及び活動に向けての準備・計画			
8			農地の観察をしよう 稲の生長を観察しよう				
9	まとめをしよう ・校区探検をまとめる	(各自の課題, クラス解体) 行動目標項目の決定 ・代表委員会へ提案・承認 活動組織作り ・点検カードの作成・実施	成長を守る工夫をしよう	・テーマと活動の見直し ・運動会			
10	昔のくらしにタイムトリップ 昔のくらしを体験しよう (その1) ・校外学習(昭和村)	大城子ども環境会議を開こう 個人テーマの設定 個人テーマの追究	収穫をしよう バンブーインスタレーション に参加しよう	・活動 (調べ学習, 体験学習)			
11	昔のくらしを体験しよう (その2) ・昔のくらしを教えてもらう会 (洗濯, 食事作り, 縄など)	活動成果のまとめ	バンブーインスタレーション に参加しよう	・活動 (調べ学習, 体験学習)			
12	自分のテーマを決めよう ・テーマを決める いろいろな方法で調べよう	・2学期の活動の自己評価		・活動 (調べ学習, 体験学習)			
1	まとめをしよう ・発表したいことを話し合う ・グループにわかれてまとめる	発表の練習	農地に肥料を入れることを知 ろう	・活動のまとめと発表の準 備			
2	・お世話になった方々を招いて 発表会を開こう ・学年発表会を開く	大城子ども環境会議の実施 ・3学期の活動の自己評価	収穫祭をしよう ・お世話になった農家の方へ感 謝の気持ちを伝える ・調べてきたことを発表する	・発表会 (以後卒業に向けた活動)			
3	学習のまとめをしよう ・ファイルの整理をする ・1年間の学習を振り返って感 想交流を行う	学習のまとめをしよう ・ファイルの整理をする	1年間のまとめをしよう				

【表10 学習計画例その2, これまでの活動の累積がベース】

平成17年度用

月	学 習 活 動(テーマ学習)				情 報	共 生	国際
	3 年 地 域	4 年 環 境	5 年 食 , 自 然	6 年 命 , 成 長			
4	総合的な学習って何だろう? テーマの決め方を学ぼう ・テーマの決め方 ・自分のテーマ調べ方を学ぼう ・本や新聞等の利用方法	ガイダンス ・前年度のふり返り, 1年間の計画 水の一生(水の節約) 現状を知ろう ・自分の家の使用量調査	ガイダンス ・前年度のふり返り, 1年間の計画 高遠って, どんどこ? 高遠や自然の家周辺の自然に関する調べ学習	ガイダンス ・前年度のふり返り, 1年間の計画 福祉って何だろう? (他に, 国際交流, 人権, コニセフ, 平和など) 福祉の意味を知ろう	P C 操 作 等 テ ー マ 学 習 分 に 含 め て 10 時 間	行 事 関 連 で 16 時 間 から 25 時 間 程 度	英 語 活 動
5	・質問の仕方(インタビュー, 手紙, 電話)を練習する 色々な方法で調べよう ・情報の集め方, 記録の仕方, ファイルの利用方法を学ぶ ・色々な方法で調べる	・八田川の今昔(大草探検隊にインタビュー) 考えよう ・アイデアを出し合う	体験コース決め 事前学習 学年集会	福祉体験教室を開こう クラステーマを決めよう 学習計画を立てよう			
6	まとめ方を学ぼう ・レポートの作り方を学ぶ ・まとめる 樟の手にチャレンジ 樟の手って何だろう 保存会の人に聞いてみよう, 見せてもらおう	・八田川クリーン作戦計画行動しよう ・風呂水再利用 ・学校水節約キャンペーン	私の体験・みんなの体験 体験のまとめ方を決める まとめる あったかとお体験交流会 ・スピーチ, 美術展, 新聞, プレゼン等	学習活動(調査, 体験) (この頃から, 内容によっては運動会での表現活動に関連した取組が必要か)			
7	チャレンジしてみよう	・八田川クリーン作戦実施	あったかワールドを作ろう クラステーマを決めよう 学習計画を立てよう	" 討論会 ・「私たちにできること」			
8	・資料集め, インタビュー, 体験活動等	・資料集め, インタビュー, 体験活動等	・資料集め, インタビュー, 体験活動等	・資料集め, インタビュー, 体験活動等			
9	見つけよう, 大城自慢 計画を立てよう 校区を歩いて「自慢」探し(防災, 公園, 秘密の遊び場, 生き物など)	まとめよう ・家庭での水節約実践報告	テーマ追究活動	自分史を作ろう 自分史って何だろう? 作成計画を立てよう 製作活動(調査, 質問) 製作活動 発表会を開こう			
10	まとめよう よその学校に発信しよう (市内, 国内の学校に発信, または校区への「自慢だより」配布)	・きれいになった八田川で遊ぼう どうするどうなるリサイクル 現状を知ろう ・自分の家の使用量調査	発表の準備をしよう	(他に, 例えば, 本を作ろう 人生の先輩にインタビュー **事件(問題)を考えよう 歴史の散歩道(修学旅行) など, 6年生として, 総合のまとめとしての学習活動)			
11	よその学校と交流しよう (または住民を招いて公民館で発表等)	・リサイクル商品あれこれ考えよう ・家庭や学校でのゴミ減量方法	ポスターセッションをしよう ・学年発表会, 展示等 (これ以降は, 他に, 例えば, 新聞を読もう テレビ・マンガの研究 文房具から世界を見つめよう など, 視野を広げる学習活動)	↓			
12	昔のおもちゃを作って遊ぼう おもちゃを調べよう 作るおもちゃを決めよう	・家庭や学校でのリサイクル行動しよう ・野菜くず再利用レシピ	あったかワールドを広げよう ホームページの作り方を学ぼう	伝えよう, 私たちの思い (または卒業に向けた諸活動) テーマを決めよう			
1	作り方を調べよう 作ってみよう(老人会の支援)	・リサイクル工作	自分のホームページを作ろう ・テーマ学習のまとめ ・各自の課題	計画を立てよう			
2	おもちゃ名人決定イベント (おもちゃの代わりに, 料理も考えられる)	まとめよう ・リサイクル工作展 ・オリジナルレシピの料理	伝えよう, 高遠の息吹 ・4年生への発信	実践活動 (手紙, 料理, 合奏, ボランティア等, クラス単位で活動する)			
3	学習のまとめをしよう ・自己評価, ファイルの整理 ・感想交流	学習のまとめをしよう ・自己評価, ファイルの整理 ・感想交流	学習のまとめをしよう ・自己評価, ファイルの整理 ・感想交流	学習のまとめをしよう ・自己評価, ファイルの整理 ・感想交流			

4 研究の成果と課題

(1) 成 果

ア 指導目標の明示と重点指導目標の設定について

「何のために」(目標),「どのようにして」(学習スキル)自分の学習を進めていくのか,そして「目標が達成されたのかどうか」(振り返りシート)教師が意識し,児童自身にも計画的な学習の習慣が定着していくような指導がなされるようになった。

イ 学習スキル系統表の作成について

抽出された学習スキルは多岐にわたるものであり,問題解決型のテーマ学習に合わせ,発達段階を考慮した系統表にすることによって,教師が活用できるようになった。

ウ 教科等と関連付けた学習計画表の作成について

教科等の単元や主題名を学年別の一覧表にまとめ,学習計画表を作成する際にそれらと関連付けた学習活動を設定できるような条件が整備された。また,各学年の「育てたい力」に対応した評価項目を計画表に位置付けることによって,学習活動で何を育てようとしているのか見通しをもった指導がなされるようになった。

エ 評価シートの活用について

指導のPDCAサイクルが習慣化しつつある。評価シートに対応した学習計画表を作成することにより,これまでよりも教師の指導が目標を意識して行われるようになった。また,児童アンケートによる評価を通して,年度途中において指導の修正が行われるようになった。

オ 指導上の課題解決の方法について

指導上の課題をKJ法によって洗い出し,改善策に優先順位を設定した。そして,学習計画表作成の負担をいかに減らすかが最優先課題となり,そのために学習計画例を作成して次年度の各学年の教師が参考にできるようにした。これからの課題解決方法のモデルとなった。

これまで「何をしたらいいのか」と模索を続けていた教師の姿勢が,「何を育てるのか」へと目標を意識したものに変わりつつある。

(2) 課 題

ア 評価シートについて

評価シートにおいて,達成基準を設け達成度を評価している。3段階の数字表記の意味や区分けの根拠についてはまだ確定したものはなく,今後検討していく必要がある。

イ 外部評価について

保護者の総合的な学習の時間に対する感想や疑問等を学校通信や懇談会等の場で積極的に取り上げることで説明責任を果たすというのが,現時点での本校の姿勢であり,外部評価である。今後も,保護者の意見を学習内容等にどのように反映させていくことが適切なのか,また可能なのかを検討していきたい。

ウ 学習内容について

KJ法による課題解決によって教師の学習計画表作成の負担をある程度減らすことができたが,それでも根強いのが,学習計画固定化の希望である。現在本校では非固定的な学習計画で実践しており,教師が学級や学年の学習計画を工夫しながら立てている。これは教師の力量を高めるという観点では価値のあることだが,年度初めの多忙な状況も考慮する必要がある。

いずれにしても,「何を育てるのか」を指導の基本としつつ,児童が意欲的に取り組むような学習内容にすることが必要である。そして,それによって保護者の信頼を得ていきたいと考えている。